

光源の違いによる織物の色

文化女子大家政　〇李 鍾淑　成瀬 信子

目的　色測定の標準光源がC光源からD65にJIS法にISOに準じて取り入れられるようになった。そこで、光源を変えることによってどの程度、織物上では影響があるのかを調べ検討する。

方法　試料としては、光沢の小さい綿のカラーブロードと織物としては比較的に光沢のあるアセテートサーテンについて、光源をC光源とD65光源として同一条件で測定を行った。色表示としてはC光源の場合、マンセル色表示が行われるが、ここではあくまでも反射率X, Y, Z (%)より、相対的に色差をアダムス・ニッカーソン色差式を用いて、C光源を基準にした時のD65光源の色差を求め検討した。

結果　紫外部に近い主波長が紫・青系の織物は、主波長が紫外部より離れた黄・赤より、C光源を基準としたD65光源の色差は大きい。つやの大きい織物は表面一次反射光が大なので、色によっては、つやの小さい織物よりその色差は大きい。